

相模原構想地域の現状(まとめと論点)

<p>基本的事項</p>	<p>＜入院患者推計＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は年々減少。65歳以上の高齢者は年々増加しており、2015年比で2025年は1.15倍、2040年は1.37倍。75歳以上は2015年比で2025年は1.61倍、2040年は1.77倍。 ・患者数は、2025年には2015年比1.27倍、2040年は1.46倍に増加。65歳以上、75歳以上の患者は増加、15歳未満の患者は減少。 ・疾患別では、妊娠、分娩及び産じょくを除き、すべての疾患で増加。 		<p>＜要介護者推計＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の要支援・要介護者数は、2025年には、2015年比1.59倍・2017年比1.45倍の42,027人と推計。 	
	<p>＜病床の状況(病床機能報告)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床機能報告においては、平成28年度と比較して、高度急性期が減少し、急性期と報告された病床数が増加した。 ・高度急性期は、病床利用率が95%以上の病棟が多くなっているが、急性期は、70%～80%の病棟が多くなっている。 			
<p>入院基本料</p>	<p>＜一般病床、7:1・10:1＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は80.0%、東京(9.9%)。 ・県央(5.8%)に流出。流出超過(H26から同傾向)。 ・7:1、10:1のレセプト出現比は全国平均より28.7%低い。 	<p>＜地域包括ケア病棟＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は84.1%。流出超過。 ・レセプト出現比は全国平均より43.7%低い。 	<p>＜回復期リハ病棟＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は64.1%。流出超過。東京都(17.8%)や県央(15.4%)に流出している。 ・レセプト出現比は全国平均より41%低い。 	<p>＜療養病床＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己完結率は81.6%。流入超過。 ・療養病床基本料のレセプト出現比は全国平均より65%高い。

<p>救急医療</p>	<p>＜救急医療＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・85.1%の患者が二次救急を圏域内で完結。流出入拮抗。 ・夜間休日救急搬送（外来）及び3次救急医療体制のレセプト出現比が高い。 		
<p>疾患別の地域特性</p>	<p>＜がん＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年入院患者数：全体的に増加する。最も実数が多いのは肺がん。 ・がん入院の自圏域での完結率は最も高い肺がんで86.4%、最も低い乳がんで83.0%。流入超過。 ・化学療法（入院、外来）の自圏域での完結率は、それぞれ、約81%、78%。 放射線治療（入院・外来）の自圏域での完結率は約90%。 ・いずれの項目でも、東京・県央への流出が多くなっている。 	<p>＜急性心筋梗塞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自圏域での完結率は84.5%。流出入拮抗している。 ・レセプト出現比の各指標は全体的に全国平均と同程度となっている。 	<p>＜脳卒中＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自圏域での完結率は67～79%。流出入は拮抗している。 ・レセプト出現比の各指標は全体的に全国平均を下回っている。
<p>在宅医療等</p>	<p>＜在宅医療等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療の自圏域での完結率は61.9%。流出超過。 ・緊急往診（入院）（156.3）、在宅経管栄養法（160.7）に係るレセプト出現比は高い。 		

【課題・論点】

- 地域における役割分担の進め方、医療機能の過不足について
 - ・病床機能報告では、急性期が多く、回復期が少なく報告されているが、急性期・回復期の間での連携の状況と役割分担をどう考えるか。
 - ・脳卒中のレセプト出現比は、脳卒中ケアユニット入院医療管理料（SCU）及び脳卒中に対するリハビリテーション（外来）は、全国平均並みだが、それ以外はレセプト出現比が低くなっている。
- 医療機関と、在宅医療や介護資源との連携